平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成 27 年４月 21 日に「平成 27 年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習･生活状況の概要をお知らせします。

１　調査の概要

（１）目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（平成27年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領：文部科学省から）

（２）実施状況

〇実施年月日　　平成27年４月21日（火）

〇実施内容　　①小学校の教科に関する調査（国語・算数・理科）

主として知識に関する問題　　国語Ａ、算数Ａ、理科Ａ

主として活用に関する問題　　国語Ｂ、算数Ｂ、理科Ｂ

中学校の教科に関する調査（国語・数学・理科）

主として知識に関する問題　　国語Ａ、数学Ａ、理科Ａ

主として活用に関する問題　　国語Ｂ、数学Ｂ、理科Ｂ

②児童生徒質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

〇実施学年　　小学校６年生　　16校　1,366人

中学校３年生　　９校　1,094人

（３）　調査結果の見方

本調査により測定できる学力は、あくまでも特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※　使用している用語についての説明は次のとおりです。

〇平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

〇平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

〇中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと
平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。

〇標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値
標準偏差が０とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

２　結果の概要

（１）教科に関する調査（平均正答率：単位％）

○全体の傾向

		国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ 数学Ａ	算数Ｂ 数学Ｂ	理科Ａ	理科Ｂ
鎌 倉 市	小学校	69.8	66.3	76.4	47.4	64.8	61.8
	中学校	81.4	72.2	72.2	50.8	67.8	55.3
神奈川県 （公立）	小学校	67.9	64.3	74.0	44.8	59.9	60.8
	中学校	76.0	66.5	65.0	43.3	62.5	49.1
全　　国 （公立）	小学校	70.0	65.4	75.2	45.0	61.3	60.5
	中学校	75.8	65.8	64.4	41.6	63.8	48.8

小・中学校ともに、良好な結果であった。特に、中学校の数学Ａ・数学Ｂは、全国公立平均正答率及び神奈川県公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。これは、今までと同様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。

○小学校

ア【国語】

国語Ａ「主として知識に関する問題」、国語Ｂ「主として活用に関する問題」ともに、結果はおおむね良好である。文章と図とを関連付けて、自分の考えを書いたり、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書いたりする設問については、全国や県とほぼ同様に正答率は低い傾向にある。また、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読するときの工夫とその理由を書く記述式の設問については、全国や県に比べて無解答率も高くなっている。

イ【算数】

算数Ａ「主として知識に関する問題」、算数Ｂ「主として活用に関する問題」ともに、平均正答率は全国・県よりも上回っている。

「図形」において円、二等辺三角形、正三角形の性質を利用した問題では全国・県よりも高い正答率であった。「数量関係」において、グラフや図と関連付けての理解については全国・県よりも平均正答率を下回っている設問があり課題が見られる。

また、無解答率が全国・県の平均無解答率よりもほとんどの設問で上回っており、特に、理由などの記述をする設問の無解答率が高くなっている。

ウ【理科】

理科Ａ「主として知識に関する問題」、理科Ｂ「主として活用に関する問題」ともに全般的に結果は良好である。分野別では、物質分野は県や全国に比べて正答率が高いが、エネルギー分野と生命分野では正答率が低いものもある。

観察・実験の結果を整理して考察し、条件を制御して分析して自分の考えをまとめ・表現するような、科学的な思考・表現や知識の活用について課題がみられる。

また、観察・実験器具の適切な操作技能に関する知識の定着には、県や全国と同様に、課題がある。

○中学校

ア【国語】

国語Ａ「主として知識に関する問題」、国語Ｂ「主として活用に関する問題」の全体を通して結果は良好であり、全国・県と比較してすべての設問で上回っている。また、無解答率についても、全国・県よりも低い傾向にある。

多くの設問で全国・県を大きく上回っているが、自分の考えをまとめ、根拠を明確にして具体的に書く設問については、全国・県を上回っているものの、低い正答率であり、全国や県とほぼ同様の傾向を示しており、課題がある。

イ【数学】

数学Ａ「主として知識に関する問題」、数学Ｂ「主として活用に関する問題」ともに、平均正答率は全国・県よりも大きく上回っている。

「関数」において、関数の意味や式・グラフを利用した数学Ａの問題では全国・県よりもかなり高い正答率であったが、数学Ｂの問題では、必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈したり結果を説明することに課題が見られる。

また、無解答率が全国・県の平均無解答率よりもほとんどの設問で下回っており、特に正答率の低い理由などの記述をする設問の無解答率は、全国・県よりも低くなっている。

ウ【理科】

理科Ａ「主として知識に関する問題」、理科Ｂ「主として活用に関する問題」の全体を通して結果は良好である。

実験の結果を表したグラフや、実験の結果を言葉で記録した表を分析して解釈する問題は良好であるが、実験の結果を数値で表した表を分析して解釈し、規則性を見出すことに課題がある。

「課題に正対した考察をする」ことに課題があり、考えられる条件の中から対照となる条件に気付かせ、予想を検証する実験を計画する指導の充実が求められる。

記述式、短答式の問題は、全国・県と比べ無解答率は低い。

（２）児童生徒質問紙調査結果の概要

小学校

○　学習時間について、平日、休日に問わず、１日当たり長い時間勉強している割合は、全国・県より高い傾向にある。塾で勉強をしている児童が多い。また、家庭で授業の復習を行っている児童の割合は全国・県に比べて低い。

○　「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」ことに「当てはまる」割合が全国・県よりも高い。

○　基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることや睡眠に対する習慣、学校の出来事を家の人に話すことなど、おおむね良好傾向にあり、習慣付いている様子が伺える。

○　規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」という回答の割合がほぼ県と同様の結果であったが、全国より低く、これからも継続して指導を図っていく必要がある。

中学校

○　学習時間について、平日、休日に問わず、１日当たり長時間勉強している割合は、全国・県より高い傾向にある。

○　「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」割合が高い。

○　基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることやテレビゲーム、携帯電話、スマートフォンの使用状況、使用の決め事など習慣付いている様子が伺える。

○　規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」と回答した割合はほぼ県と同様の結果であったが、全国より低く、これからも継続して指導を図っていく必要がある。

３　結果の分析

（１）教科領域別　　◇…良好と認められる点　　◆…課題がある点

○小学校

ア【国語】

話すこと・聞くこと

◆話の内容に対する聞き方を工夫する。（Ａ３）

書くこと

◇具体的な事例を挙げて説明する文章を書く。（Ａ４）

◇目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえる。（Ｂ２二）

◆目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。（Ｂ１三）
◆文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く。（Ｂ２三）

読むこと

◇目的に応じ、中心となる語や文をとらえる。（Ｂ２一ア・イ）
◇作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る。（Ａ７）
◆新聞のコラムを読んで、表現の工夫をとらえる。（Ａ５二）
◆登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する。（Ｂ３二）

言語事項

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。（Ａ１一１・２・３）
◇文を構成する主語と述語との照応関係をとらえる。（Ａ２二）
◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。（Ａ１二１・３）
◆文の中における主語をとらえる。（Ａ２一）

◎指導改善に向けて

これまでの調査結果に引き続き、漢字の書きについて、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識や技能の定着に不十分な面があった。習得した漢字を、日常的に文や文章の中や文脈で合わせて、適切に使えるようにするなどの指導に継続して取り組む必要がある。

書くことにも課題がみられる。取材した内容を新聞記事として書く際に、事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分に伝わるように、取材した複数の内容を整理して書く指導が必要である。また、図表やグラフなどを読み取るとともに、文章と図表やグラフなどを関連付けて読み、自分の考えをまとめる指導が重要である。

〇指導のポイント

・目的や意図に応じて聞き方を工夫する指導の充実。
・目的に応じて、適切に引用する指導の充実。
・繰り返し音読することで、登場人物の気持ちの変化をとらえる指導の充実。
・当該学年までに配当されている漢字を習得する指導の充実。
・主語と述語、修飾語と被修飾語との関係に注意し、文の構成を理解する指導の充実。

〇具体例

・聞くことの学習の機会を意図的・計画的に設定し、相手の話の目的や意図をとらえながら内容を聞き取る学習。また、取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連したことなどを整理し、自分の考えをまとめる学習。
・児童が引用する目的意識や必要性を十分にもてる言語活動を位置付け、課題解決の過程において適切に引用し、自分の思いや考えを書く学習。
・繰り返し何度も声に出して読むことで、想像を広げたり理解を深めたりし、本や文章

の内容や表現の特徴に合わせた音読の方法を工夫させ、音読の楽しさを味わう学習。
・習得した漢字を書く機会を可能な限り多く、意図的・計画的に設定し、児童が漢字をより身近なものとしてとらえることができる学習。
・文や文章を理解したり表現したりするときに、主語と述語の照応関係の大切さについて意識付ける学習。

イ【算数】

数と計算

◇加法における計算の確かめの方法を理解している。（Ａ１（３））

◇整数・分数の四則計算をすることができる。（Ａ２（１）・（３）・（４））

◆概数を用いた見積り結果とそれに基づく判断をし、3000 個集めればよい理由を記述する。（Ｂ４（３））

◆正三角形の性質を基に、示された周の長さが等しくなる性質を求める。（Ｂ３（１））

量と測定

◇180°よりも大きい角の大きさを、２直角、３直角を基にとらえる。（Ａ４（１））

◇日常生活の中で必要となる時刻を求める。（Ａ３）

◆180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求める。（Ａ４（２））

◆条件を変更した場面に面積を２等分する考えを適用して、示された部分の面積を求める。（Ｂ５（２））

図　形

◇円の性質から三角形の等辺をとらえ、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求める。（Ａ５（２））

◇平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している。（Ｂ１（１））

◆示された二組の道のりが等しくなる根拠として図形を見いだし、その図形の性質を記述できる。（Ｂ１（３））

◆長方形の面積を２等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる。（Ｂ５（１））

数量関係

◇グラフに表されている事柄を読み取る。（Ａ７）

◇点で表現された数量の関係を図と関連付けて理解する。（Ａ８）

◆示された情報から基準量を求める場面ととらえ、比較量と割合から基準量を求める。（Ｂ２（２））

◆示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる。（Ｂ２（３））

◎指導改善に向けて

Ａ問題、Ｂ問題ともに良好な結果である。今後も、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、さらに活用することができるよう工夫･改善していく必要があり、「数量関係」において、グラフや図と関連付けて理解していくことに課題がある。また、無解答率が高い現状を考え、問題を深く考え最後まで解こうとする意欲、課題解決に向け、自ら積極的に取り組もうとする姿勢を育てる指導が必要である。

○指導のポイント

・小数の意味を理解し、様々な小数の計算ができる指導の充実。
・概数を理解し、目的に応じて用いることができる指導の充実。
・図形の面積を計算によって求めることができる指導の充実。
・図形を構成する要素に着目し、図形の性質の理解を深める指導の充実。
・事象を観察して数量の変化や対応の様子をとらえ、そこから規則性を見いだす指導の充実。

○具体例

・計算に見積りを活用し、計算の結果が見通せる学習。
・見積り方や見積りの結果を基に、根拠となる事象を説明できるような学習。
・示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく説明する学習。
・図形の構成を、図形の特性と関連付けて理解する学習。
・示された情報から基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえ、それらの関係の理解を深める学習。

ウ【理科】

物質

◇水蒸気は水が気体になったものであることを理解している。（３（１））
◇メスシリンダーの名称を理解している。（３（４））
◆水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる。（３（３））
◆析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる。（３（６））

エネルギー

◇振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる。（１（１））
◆振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適応できる。（１（２））
◆電磁石と磁石の同極が退け合う性質を、振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる。（１（４））

生命

◇生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析

できる。（２（２））

◆顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている。（２（４））

◆植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる。（２（５））

地球

◇打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる。（４（６））

◆方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる。（４（１））

◎指導改善に向けて

理科では知識としての理解は良好であるが、観察・実験の結果を整理して考察したり、分析したりして自分の考えをまとめ・表現するような、科学的な思考・表現に課題がある。今後は、既習の科学的な言葉や概念などを自分の考えの明確な根拠とし、実験・観察の器具を想定したり、モデル図に表現して考えたり、説明したり出来るようにする問題解決型の学習に意識して取り組む必要がある。その際、観察・実験のための器具の正しい操作を確実に習得させるとともに、操作の意味を理解できるよう一人ひとりが器具を十分に操作する機会を確保することも重要である。

〇指導のポイント

・問題解決型の学習への取組の充実。

・観察や実験のヒントカードやキーワードの提示など教師の支援の充実。

・観察・実験の十分な時間の保障や結果について考察の充実。

・結論を導く際には、表やグラフに整理して分析的に読み取らせる指導の充実。

・学習した知識が、自然の事物や・現象の変化など実際の生活や自然との関わりがあることに気付かせ、生活へ意図的に適応させる場面の充実。

〇具体例

・実験では予想や仮説を立て、観察・実験の結果を表やグラフに整理して、グループ内などで分析的に読み取る機会をもち、科学的な言葉や概念を使って説明する学習。

・科学的な言葉や概念を習得するために、表やグラフ、図や絵、映像資料や ICT 機器等を活用し、児童が事物・現象についてイメージしやすい学習。

・観察のポイントや手順の理由を明確にしたり、自分の考えの根拠を書いたり、科学的な言葉や概念を意識的に使う学習。

・十分な実験時間を確保し、一人ひとりが実験器具を操作する時間の保障をする学習。

・実際の生活の中にも、学習した知識が関係していることに気付かせる学習。

○中学校

ア【国語】

話すこと・聞くこと

◇相手の反応を踏まえて話す。（Ａ１一）

◇効果的な資料を作成し、活用して話す。（Ｂ１二）

◆聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す。（Ａ１二）

書くこと

◇意見を支える根拠の明確さについて助言する。（Ａ２一）

◇書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く。（Ａ２二）

◆資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く。（Ｂ１三）

◆複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。（Ｂ２三）

読むこと

◇登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。（Ａ３二）

◇文章から適切な情報を得て、考えをまとめる。（Ａ５一）

◆文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。（Ｂ３三）

言語事項

◇文脈に即して漢字を正しく書く、読む。（Ａ９一、二）

◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。（Ａ９三ア、ウ、カ）

◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。（Ａ９三イ、オ）

◆単語の種別について理解する。（Ａ９四②）

◎指導改善に向けて

複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書いたり、文章の構成や展開を踏まえて、根拠を明確にして自分の考えを書いたりすることに課題があった。今後も、資料から得た情報を自分と結びつけて考え、自分の考えを分かりやすく具体的に書くよう指導する必要がある。

言語事項では、表現の技法と単語の類別について理解することに、一部課題があった。今後も言葉への関心を深め、言語感覚を豊かにするとともに、漢字や慣用句、表現技法や単語の働きなど、知識を身に付ける学習について、引き続き取り組む必要がある。また、各教科等における学習や、掲示物等の校内活動の中で漢字を適切に使用するように指導することも重要である。

○指導のポイント

・資料や機器を効果的に活用して話す指導の充実。

・資料を読んで内容を正確に理解するとともに、新たな気付きや問題意識を明らかにする指導の充実。

・複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く指導や根拠を明確

にして、自分の考えを具体的に書く指導の充実。
・言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の充実。
○具体例
・伝えたい内容を聞き手に分かりやすくするために、資料や機器を効果的に活用するスピーチやプレゼンテーションの学習。
・書いた文章を互いに読み合い、根拠が明確に示されているか、自分の考えが具体的に示されているかなど、複数の観点から内容の検討ができるような学習。
・得た情報を自分と結び付けて考え、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにする学習。
・辞書を使用し、辞書的な意味を基に文脈に則して語句の意味をとらえるようにし、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習。

イ【数学】

数と式

◇一次式の減法の計算ができる。（Ａ２（１））
◇問題場面における考察の対象を明確にとらえる。（Ｂ２（１））
◆数量の関係を文字式に表す。Ａ２（２））
◆具体的な事象における数量の関係をとらえ、連立二元一次方程式をつくる。（Ａ３（３））

図　形

◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。（Ａ７（２））
◇直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される、空間図形の形を理解している。（Ａ５（２））
◆証明の必要性と意味を理解している。（Ａ８）
◆図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する。（Ｂ３（２））

関　数

◇関数の意味を理解している。（Ａ９）
◇時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取る。（A12（２））
◆事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する。（Ｂ１（３））
◆与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する。（Ｂ６（２））

資料の活用

◇与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求める。（A14（２））
◇起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求める。（A15（１））
◆与えられた資料から中央値を求める。（A14（１））
◆資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。（Ｂ５（２））

◎指導改善に向けて

過去の調査を通じて、A問題、B問題ともに良好な結果である。今後も、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、さらに活用することができるよう工夫・改善していく必要がある。また、必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈したり結果を説明したりすることができるよう指導していく必要がある。

○指導のポイント

・数量の関係を文字式に表すことの指導の充実。
・証明の必要性と意味の理解を深める指導の充実。
・与えられた情報を適切に読み取り、事象を数学的に表現し、その意味を的確に解釈する指導の充実。
・事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明する指導の充実。

○具体例

・事柄や数量の関係をとらえ、その関係を文字式に表すことができる学習。
・実測や操作などの帰納的な方法と演繹的な推論の違いを理解し、証明の必要性と意味について理解を深める学習。
・目的に応じて必要な情報を選択し、的確に処理し、数学的な解釈に基づき説明できる学習。
・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する学習。

ウ【理科】

知識・技能に関すること

◇塩化ナトリウムを化学式で表す。（１（１））
◇デンプンが消化酵素によって、分解されて最終的にできる物質の名称を表す。（７（１））
◆天気の記号から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測する。（２（２））
◆実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘する。（１（２））

知識・技能を活用すること

◇技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる。（５（２））
◆露点を測定する場面において、最も高い温度の時刻を指摘する。（３（１））
◆日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘する。（６（１））

分析して解釈すること

◇グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取る。（１（４））
◇実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘する。（７（２））

◆凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘する。（４（１））

◆実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる。（１（２））

実験を計画すること

◇気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画する。（２（４））

◇見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる。（７（３））

◆他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明する。（２（３））

◆音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画する。（６（２））

検討して改善すること

◇他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱した時の化学変化を説明することができる。（１（６））。

◆他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明する。（４（２））

◆他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な（課題に正対した）考察を記述する。（８（３））

◎指導改善に向けて

問題Ａ、問題Ｂともに良好な結果である。主に、知識や技能に関する出題に対しては、正答率が高い傾向にある。実験の計画や考察などを検討し、科学的な根拠を基に説明することや、実生活のある場面において、「理科に関する基礎的・基本的な知識や技能を活用し課題を見いだすこと」に課題が見られる。

観察・実験の結果を整理・分析した上で、科学的に解釈・考察し、説明できるよう、引き続き授業研究が必要であると考えられる。

〇指導のポイント

・風向，風力の観測を日常生活と結び付け、理科を学ぶ意義に気付くことができるようにする指導の充実。

・仮説を設定し、検証する実験を計画する指導の充実。

・理科で学習したことが関係する科学技術について、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする機会の充実。

・結果に基づいて考察し、予想される結果や仮説と実際の結果を比較しながら考察を行い、既習の知識や技能と関連付けて考えることができるようにする指導の充実。

・実験の結果を表にしたり、グラフにしたりすることで、実験や観測の結果の規則性を見いださせ、考えたことを言葉や文章で表す取組の充実。

○具体例

・継続的な観測を行い、風向計の仕組みを理解し、実際の風の向きと天気図上の記号を関連して理解させる。また、風の強さと木の枝の動きなどと関連付ける学習。

・実験を行う際に条件を一つずつ変えて結果を比較するといった考え方を身に付けさせる学習。原因と考えられることを個人で考え、グループで検討して仮説を設定し、実験を計画する学習。

・単元全体の課題として、理科で学習した技術（非接触 IC カードや無接点充電など）の仕組みについて、学習した科学的な概念を用いて説明することを設定する学習。

・見いだした問題から生徒自らが課題を設定し、課題解決に向けてグループで話し合うなど、主体的、協同的な学習。

・結果を表やグラフで表し、分析的に読み取る学習を行う。また、グラフを正確に読み取り、個人でグラフから読み取ったことを文章で表し、グループで比較検討する学習。

（２）児童生徒質問紙の調査結果

ア　小学校

【概要】

学習時間について、平日、休日に問わず、1 日当たり長い時間勉強している割合は、全国・県より高い傾向にある。塾で勉強をしている児童が多い。また、家庭で授業の復習を行っている児童の割合は全国・県に比べて低い。

「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」ことに「当てはまる」割合が全国・県よりも高い。

基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることや睡眠に対する習慣、学校の出来事を家の人に話すことなど、おおむね良好傾向にあり、習慣付いている様子が伺える。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」という回答の割合がほぼ県と同様の結果であったが、全国より低い。これからも継続して指導を意義の醸成を図っていく必要がある。

○学習に対する関心・意欲・態度

・「国語の授業の内容がよく分かるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童は合わせて 83.6%で、昨年度と同様である。

・「算数の授業の内容がよく分かるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童は合わせて 79.2%で、全国・県より若干低い。

・「理科の授業の内容がよく分かるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童は合わせて 85.8%で、全国・県より若干低い。

○学習時間等

・「学校の授業時間以外で普段、平均１日あたり学習する時間」は、３時間以上の児童が全国の約２倍となり高い。しかし、30 分より少ない、または全くしない児童の割合も全国より高く、本年度も二極化が見られる。30 分より少ない、または全くしない児童への手立てとして家庭と連携し、家庭での学習の習慣を付けていく必要がある。

・学校が休みの日に１日当たり４時間以上勉強している児童の割合が全国・県に比べて高く、全国より約２倍高いことがわかる。

・塾で勉強をしている児童が多く、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している」割合がとても高い。しかし、家庭で授業の復習や宿題を行っている児童の割合は、全国・県に比べて低い。

・読書時間は、２時間以上本を読んでいる割合が、全国・県より高い傾向にある。

・家で、自分で計画を立てて勉強している割合が全国・県に比べ高い。

○学習状況

・「授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う」という質問の割合は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が 82.2％で全国・県の割合より低い。また、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」という質問の割合は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合も 65.5％で全国・県の割合より低い。授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）を示し、学習内容を振り返る活動に学校全体で一層取り組む必要がある。

・「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う」という質問に対して、当てはまると回答した児童は 57.0％と全国・県に比べて低い。

・「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を確認しながら読んでいる」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童は 44.4％と全国・県に比べ高く、国語の授業に意欲的に取り組む児童が多い傾向にある。

・「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行うか」という質問に対して、週１回以上と回答した児童は 69.3％と全国・県に比べ、大幅に高くなっている。

○基本的生活習慣

・朝食を毎日食べる児童が 91.3％であり、全国・県と比べて高い。

・普段のテレビ・ビデオ、ＤＶＤの視聴時間は、「１時間より少ない」児童の割合が全国・県より高く、４時間以上視聴している児童の割合は、全国・県より低い。

・普段、１日当たりテレビゲームをする時間は、「全くしない」「１時間より少ない」を合わせると 52.9％で、全国・県と比べてゲームをする児童、ゲームをする時間は少ない。

○自尊意識

・「自分にはよいところがある」と思うと回答した児童の割合は、「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」合わせて 79.5％と全国・県から比べやや高い。

・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった」と回答した児童の割合は、79.0％と全

国・県より高い。

〇規範意識

・「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・県と比べてほぼ同じであった。

〇携帯電話、スマートフォン

・「普段、１日当たり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしているか」という質問に対して、30 分より少ないと回答している児童は 39.0％と全国・県より高い。また、携帯電話等を持っていないと回答した児童は 36.7％で、全国と比べて保有率は高い。このことにより、携帯電話、スマートフォンを持ち始める際に、家庭では使用のルールづくりとその徹底、学校では引き続き情報モラル教育の充実が求められる。

〇新聞、ニュース

・新聞を読んでいる割合は、「ほぼ毎日読んでいる」「週に１～３回程度読んでいる」と回答した児童は、合わせて 30.2％と全国・県に比べ高い。このことから、ニュースなど社会の動きに関心を示す児童が多いと考えられる。

イ　中学校

【概要】

学習時間について、平日、休日に問わず、1 日当たり長時間勉強している割合は、全国・県より高い傾向である。

「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」割合が高い。

基本的生活習慣では、朝食を毎日きちんと食べることやテレビゲーム、携帯電話、スマートフォンの使用状況、使用の決め事など習慣付いている様子が伺える。

規範意識については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問に対して「当てはまる」と回答した割合はほぼ県と同様の結果であったが、が全国より低い。これからも継続して指導をし、意識の醸成を図っていく必要がある。

〇学習に対する関心・意欲・態度

・「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」生徒の割合は、22.4％で全国・県より高い。

・「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」生徒の割合が 25.9％で、全国・県より高い。

・「国語の授業の内容がよく分かるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかとい

えば当てはまる」と回答している生徒は合わせて72.6%で、全国・県より低い。
・「数学の授業の内容がよく分かるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒は合わせて73.9%で、全国・県よりやや高い。
・「理科の授業の内容がよく分かるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒は合わせて72.2%で、全国・県より高い。

○学習時間等

・「学校の授業時間以外で普段、平均１日あたり学習する時間」は、３時間以上学習する生徒の割合は、全国・県より高い。
・学校が休みの日に１日あたり４時間以上勉強している生徒の割合が全国・県に比べて高い。
・塾で勉強をしている生徒が多く、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している」割合が高い。
・読書時間は、２時間以上本を読んでいる割合が、全国・県より高い傾向にあるが、全く読まない生徒の割合は、全国・県に比べ低く、31.0%である。
・家で、自分で計画を立てて勉強している割合が全国・県に比べ高い。

○学習状況

・「授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う」という質問の割合は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は87.3%で全国・県と比べ高い。また、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」という質問の割合は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は56.3%で県より高い。授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）を示し、学習内容を振り返る活動は学校全体で今後も取り組む必要がある。
・「数学の問題の解き方が分からないときは諦めずにいろいろな方法を考える」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は70.6%と全国・県に比べやや高い。諦めず努力して問題に取り組む生徒が多い。
・「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている」生徒の割合は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」合わせて57.3%で、全国・県と比べ高い。
・各教科等を通して、調べたり考えたりしたことを発表したり話し合ったりと言語活動を取り入れた授業への取組の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて全国・県に比べて高い。言語活動が生徒に浸透していると考えられる。

○基本的生活習慣

・朝食を毎日食べる生徒が86.1%であり、全国・県と比べて高い。
・普段のテレビ・ビデオ、ＤＶＤの視聴時間は、「１時間より少ない」生徒の割合が全国・県より高く、４時間以上視聴している生徒の割合は、全国・県より低い。
・普段、１日当たりテレビゲームをする時間は、「全くしない」「１時間より少ない」を合わせると51.3%で、全国・県と比べてゲームをする生徒、ゲームをする時間は少ない。

○自尊意識

・「自分にはよいところがある」と思うと回答した生徒の割合は、「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」合わせて 76.5%と全国・県より高い。

・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった」と回答した生徒の割合は、76.8%と全国・県より高い。

・何かをやりとげた達成感や成就感を感じる割合や、自己肯定感が全国・県に比べ高めである。

○規範意識

・「人の気持ちがわかる人間になりたい」という質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国・県と比べて高い。

・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、県と比べてほぼ同じ割合であった。今後も「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」という認識を生徒にもたせるとともに、いじめ問題に取り組む機会を設け、生徒にいじめについて考えさせ、生徒が主体的に行動できるよう取り組む必要がある。

・「学校の規則を守っているか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は 94.1%であり、全国・県の割合とほぼ同様である。

○家庭でのコミュニケーションや地域とのかかわり

・家族と話すことや家族とのかかわりは全国・県より高い割合だが、地域性からと考えられるが、地域の行事への参加割合は県同様、全国よりも低い。

○携帯電話、スマートフォン

・所持率は 80.6%で県より低いが全国よりは高い。

・「普段、１日当たり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしているか」という質問に対して、30 分より少ないと回答している生徒が 21.5%と回答の中で一番高い。

○新聞、ニュース

・新聞を読んでいる割合は、「ほぼ毎日読んでいる」「週に１～３回程度読んでいる」と回答した生徒は、合わせて 20.5%と全国・県と比べ高いが、61.3%の生徒が「ほとんどまたは全く読まない」という結果である。

・逆に「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る」生徒の割合は、54.3%と全国・県より高い。ニュースなどの情報はテレビやインターネットからが主となっている。

４　今後の学校での取組

本調査における本市の集計結果は、学習面では過去の調査と同様、良好な結果を示している。また、いじめに対する児童生徒の意識が、過去の結果に比べ横ばいまたは高められており、いじめ防止の取組等、成果が見られる。今後も継続して指導する必要があると考える。

学習においては、各教科の調査分析にまとめた、領域の課題、指導のポイント及び具体例を参考に、今後も引き続き、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組を進めることが必要である。

日々の授業では「児童生徒が主体的に取り組む」といった授業形態の工夫が必要であり、言語活動の充実はその学習活動の一つになる。児童生徒に自分の考えをまとめたり、発表したり、他者の意見を聞いたりするなどの活動を充実させる取組も今後も必要である。

そして、授業の始まりには学習の目標（めあて・ねらい）を表示し、児童生徒が学習の見通しを持って授業を受け、その時間の終わりには、学習の目標に対する振り返りができるよう、組織的・計画的に行っていくよう努める必要がある。

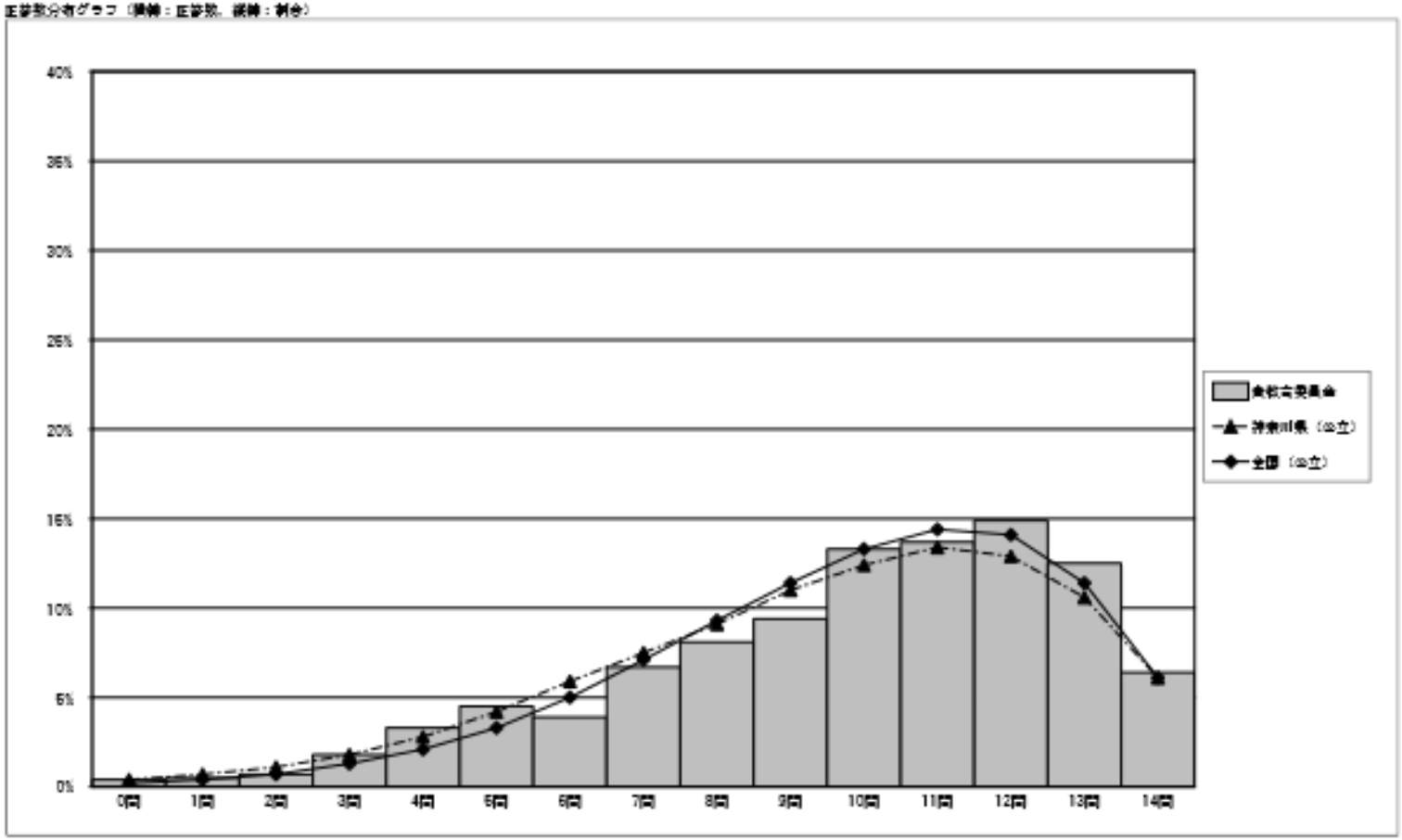
調査結果概況　［国語Ａ：主として知識］

鎌倉市教育委員会ー児童

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,366	9.8 / 14	69.8	10.0	3.0
神奈川県（公立）	74,554	9.5 / 14	67.9	10.0	3.0
全国（公立）	1,051,254	9.9 / 14	70.0	10.0	2.9

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値（左：児童数　右：割合(%)）		
0問	6	0.4
1問	7	0.5
2問	9	0.7
3問	24	1.8
4問	45	3.3
5問	61	4.5
6問	53	3.9
7問	91	6.7
8問	110	8.1
9問	129	9.4
10問	182	13.3
11問	187	13.7
12問	203	14.9
13問	171	12.5
14問	88	6.4

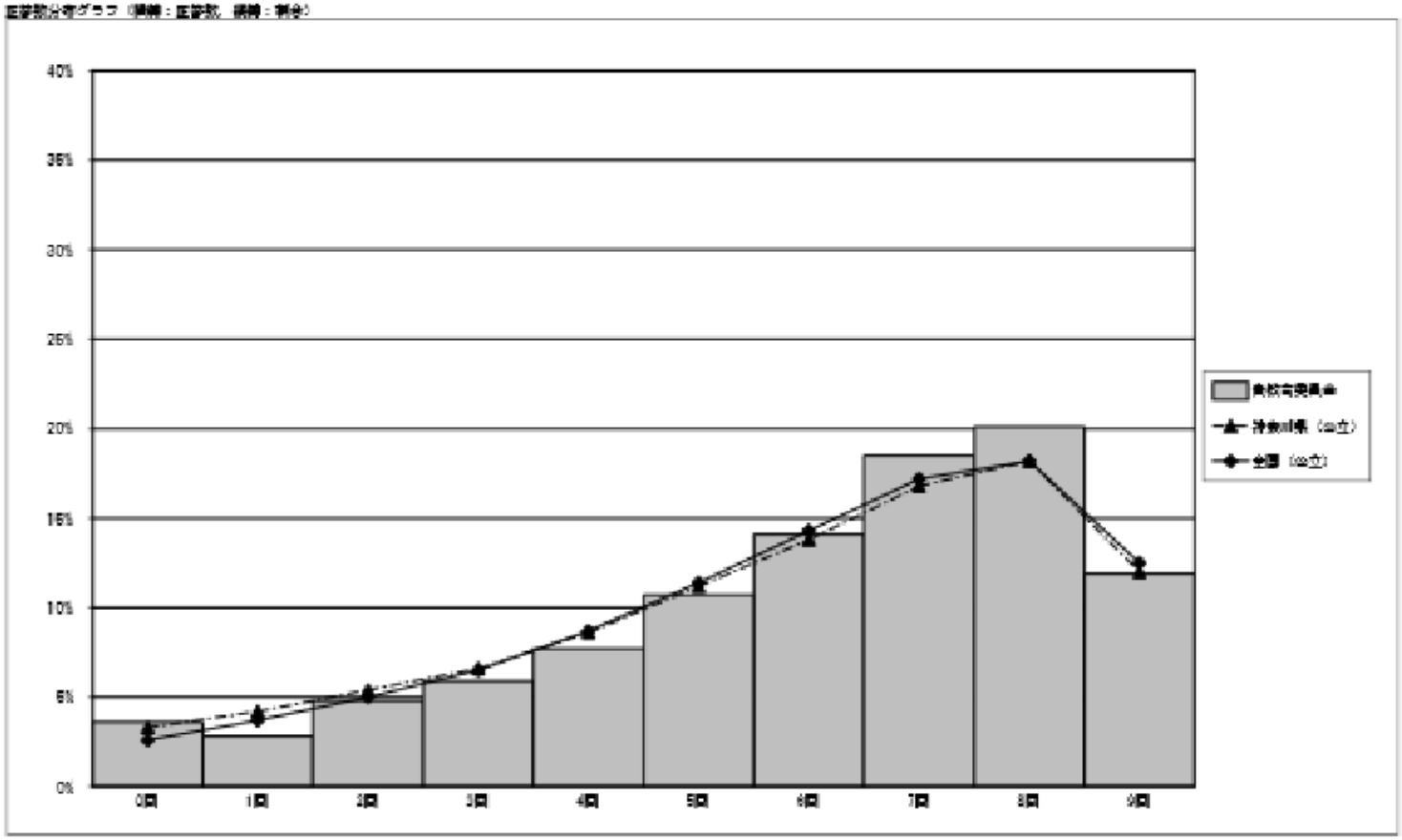
調査結果概況　［国語Ｂ：主として活用］

鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは，４月２１日に実施した調査の結果を，児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,[illegible]	[illegible] / 9	[illegible]	7.0	2.4
神奈川県（公立）	74,[illegible]	[illegible] / 9	[illegible]	[illegible]	[illegible]
全国（公立）	1,[illegible]	[illegible] / 9	[illegible]	[illegible]	[illegible]

正答数分布グラフ（棒線：正答数，線線：割合）



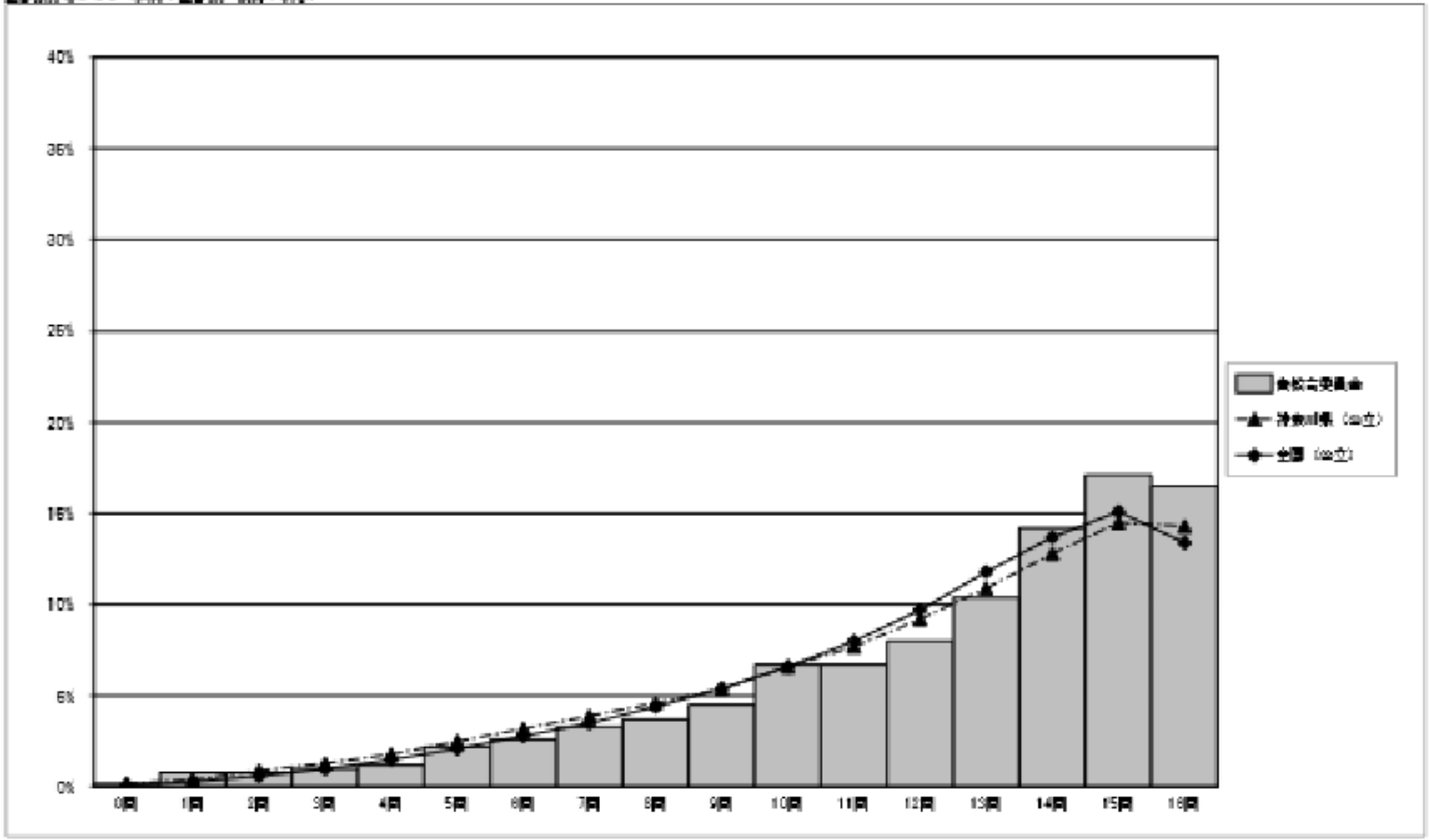
正答数集計値（左：児童数　右：割合（%））		
0問	[illegible]	[illegible]
1問	[illegible]	[illegible]
2問	[illegible]	[illegible]
3問	[illegible]	[illegible]
4問	[illegible]	[illegible]
5問	[illegible]	[illegible]
6問	[illegible]	[illegible]
7問	[illegible]	[illegible]
8問	[illegible]	[illegible]
9問	[illegible]	[illegible]

調査結果概況　【算数Ａ：主として知識】
鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,[illegible]	12.2 / 16	76.4	13.0	3.0
神奈川県（公立）	74,[illegible]	11.9 / 16	74.0	13.0	3.5
全国（公立）	1,[illegible],[illegible]	12.0 / 16	75.3	13.0	3.4

正答数分布グラフ（棒線：正答数，折線：割合）



正答数集計値（左：児童数　右：割合(%)）		
0問	2	0.2
1問	11	0.5
2問	11	0.5
3問	14	1.0
4問	17	1.2
5問	31	2.2
6問	35	2.5
7問	45	3.2
8問	51	3.7
9問	62	4.5
10問	82	5.7
11問	82	5.7
12問	109	8.0
13問	142	10.4
14問	194	14.2
15問	237	17.1
16問	228	16.7

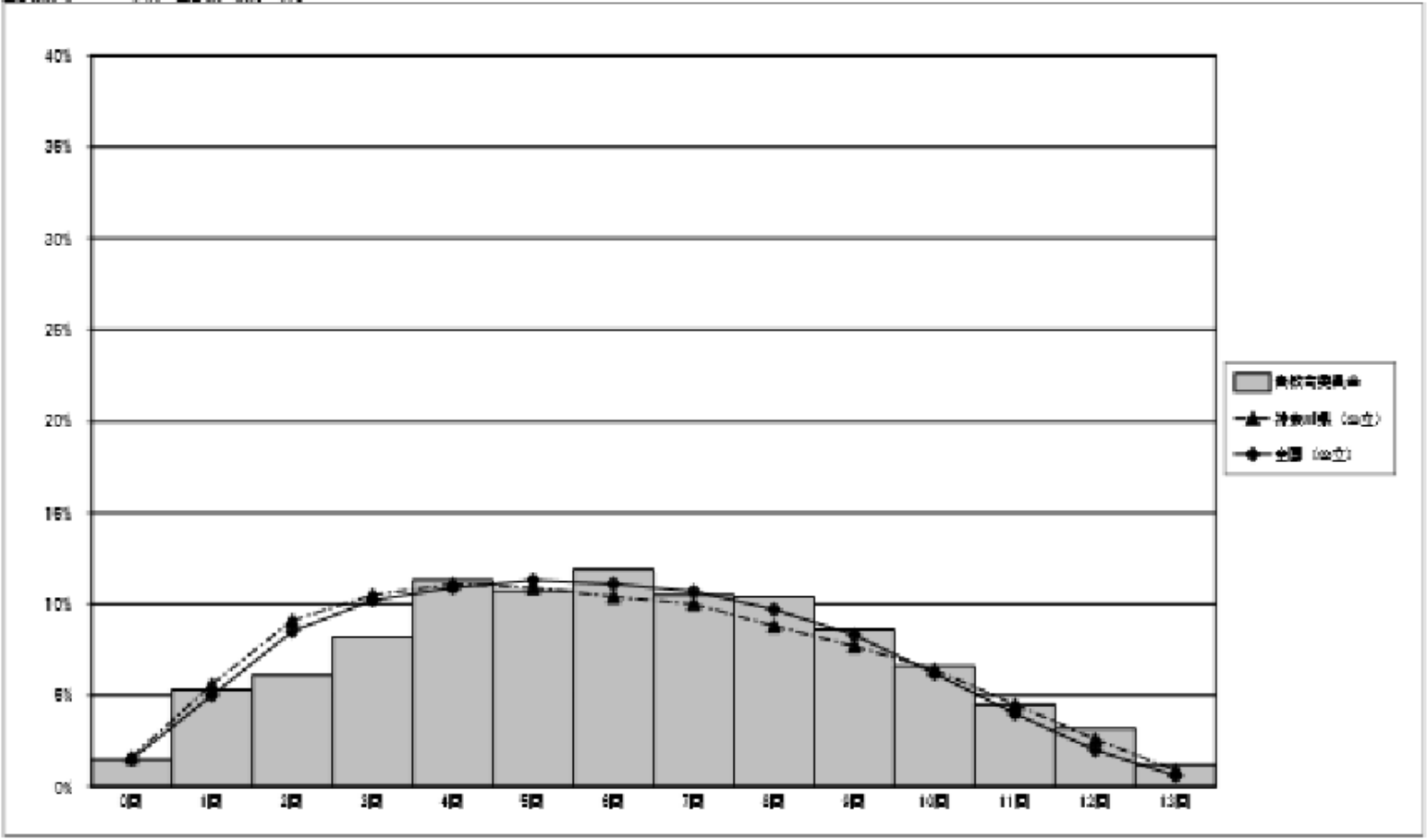
調査結果概況　［算数Ｂ：主として活用］

鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,[illegible]	6.2 / 13	47.4	6.0	3.1
神奈川県（公立）	74,[illegible]	5.8 / 13	44.8	6.0	3.1
全国（公立）	1,[illegible],[illegible]	5.9 / 13	45.0	6.0	3.0

正答数分布グラフ（棒線：正答数，折線：割合）



正答数集計値（左：児童数　右：割合(%)）		
0問	21	1.7
1問	72	5.9
2問	97	8.1
3問	112	9.2
4問	134	11.0
5問	148	12.1
6問	152	12.5
7問	143	11.7
8問	142	11.6
9問	117	9.6
10問	80	6.6
11問	52	4.3
12問	44	3.6
13問	15	1.2

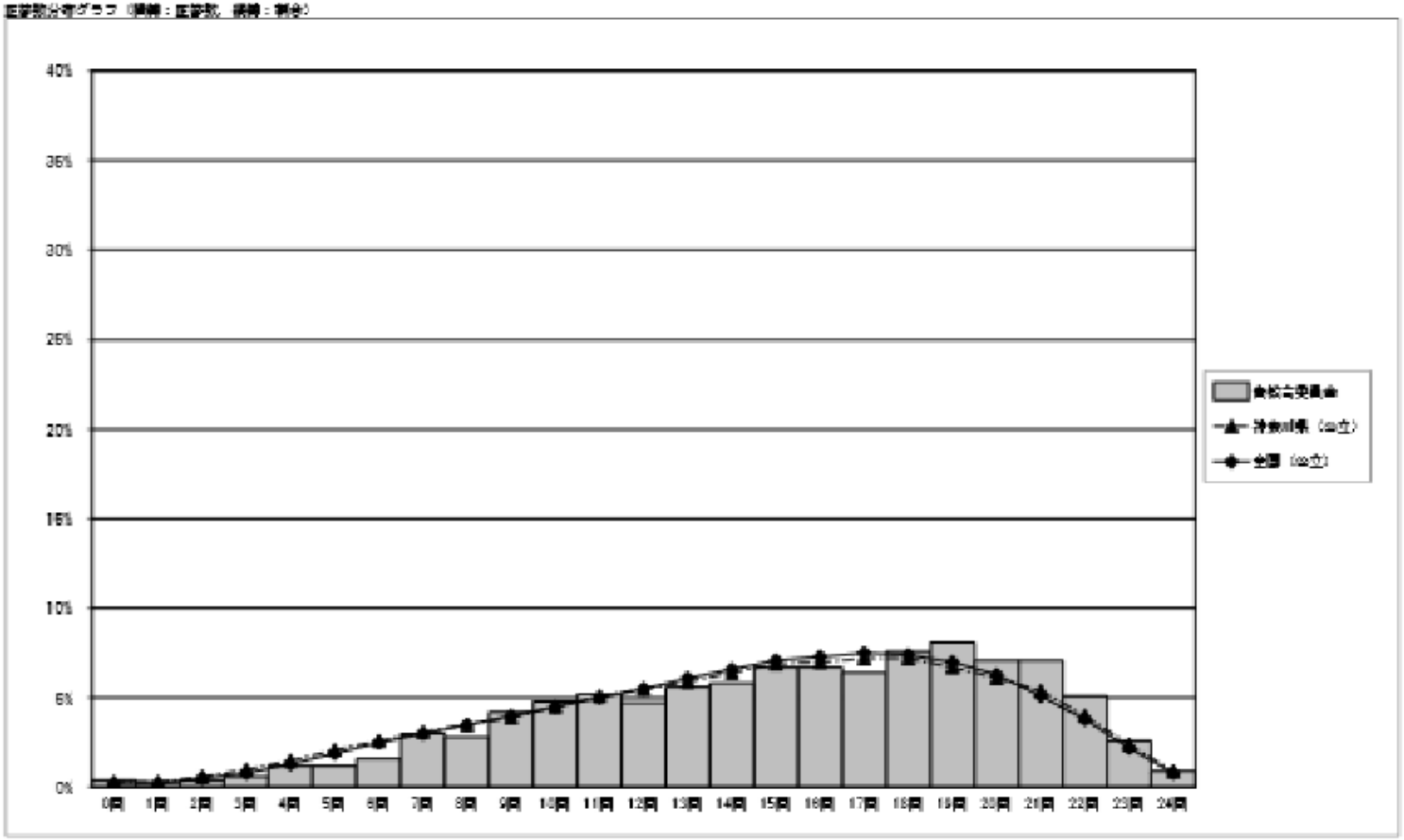
調査結果概況　［理科］

鎌倉市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは，４月２１日に実施した調査の結果を，児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,357	13.1 / 24	53.5	13.0	5.1
神奈川県（公立）	74,553	14.5 / 24	60.4	15.0	5.2
全国（公立）	1,165,793	14.4 / 24	60.0	15.0	5.0

正答数分布グラフ（棒線：正答数，折線：割合）



正答数集計値（左：児童数　右：割合(%)）		
0問	6	0.4
1問	4	0.3
2問	6	0.4
3問	6	0.5
4問	17	1.3
5問	18	1.3
6問	22	1.6
7問	41	3.0
8問	35	2.6
9問	57	4.2
10問	62	4.6
11問	71	5.2
12問	64	4.7
13問	77	5.6
14問	79	5.8
15問	81	5.7
16問	82	5.7
17問	97	5.4
18問	104	7.6
19問	111	8.1
20問	97	7.1
21問	97	7.1
22問	79	5.8
23問	35	2.6
24問	12	0.9

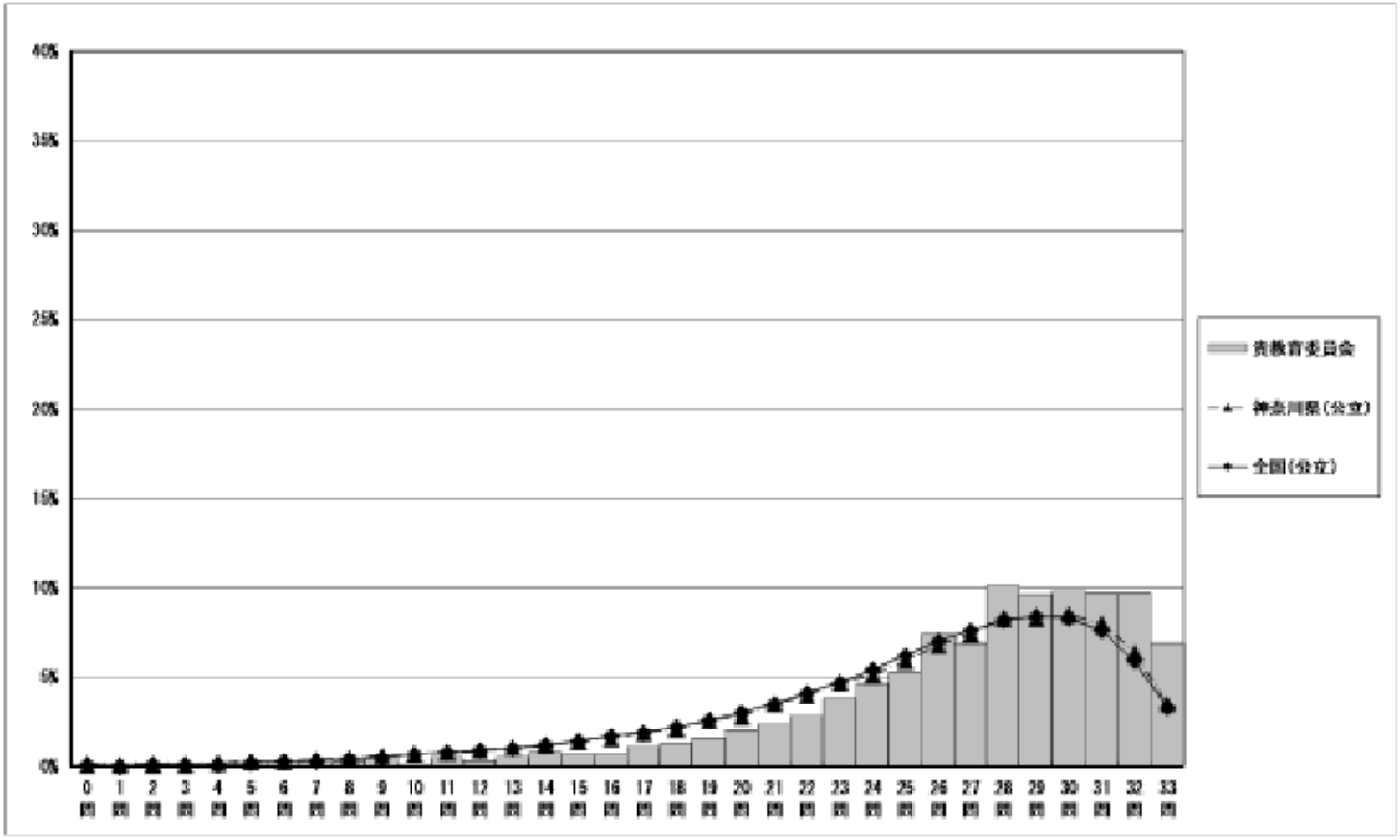
調査結果概況　［国語Ａ：主として知識］

鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,696	25.9 / 33	81.4	28.0	5.2
神奈川県（公立）	66,117	25.1 / 33	76.0	27.0	6.1
全国（公立）	1,016,451	25.0 / 33	75.8	26.0	6.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値（左：生徒数　右：割合（%））		
0問	1	0.1
1問	1	0.1
2問	1	0.1
3問	1	0.1
4問	0	0.0
5問	1	0.1
6問	1	0.1
7問	1	0.1
8問	3	0.3
9問	5	0.5
10問	1	0.1
11問	5	0.5
12問	3	0.3
13問	6	0.5
14問	9	0.8
15問	8	0.7
16問	8	0.7
17問	12	1.1
18問	14	1.3
19問	18	1.6
20問	22	2.0
21問	26	2.4
22問	31	2.8
23問	42	3.8
24問	59	4.6
25問	58	5.3
26問	81	7.4
27問	76	6.9
28問	111	10.1
29問	105	9.6
30問	108	9.8
31問	106	9.7
32問	107	9.7
33問	76	6.9

調査結果概況　［国語Ｂ：主として活用］

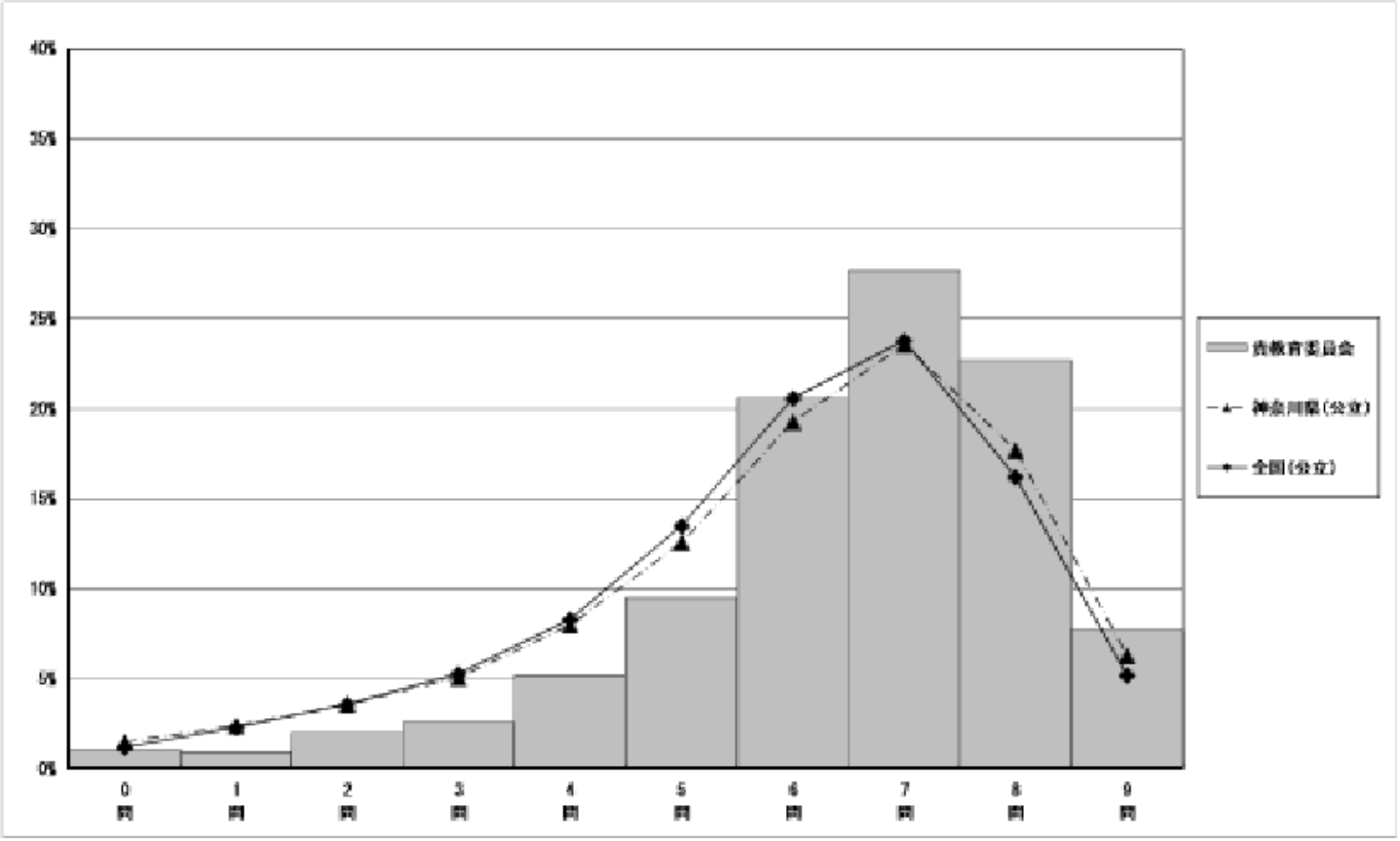
鎌倉市教育委員会ー生徒

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,096	6.5 / 9	72.2	7.0	1.8
神奈川県（公立）	66,138	6.0 / 9	66.5	6.0	2.0
全国（公立）	1,016,575	5.9 / 9	65.8	6.0	2.0

正答数集計値（左：生徒数　右：割合(%)）		
0問	12	1.1
1問	10	0.9
2問	22	2.0
3問	28	2.6
4問	57	5.2
5問	104	9.5
6問	226	20.6
7問	304	27.7
8問	249	22.7
9問	84	7.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



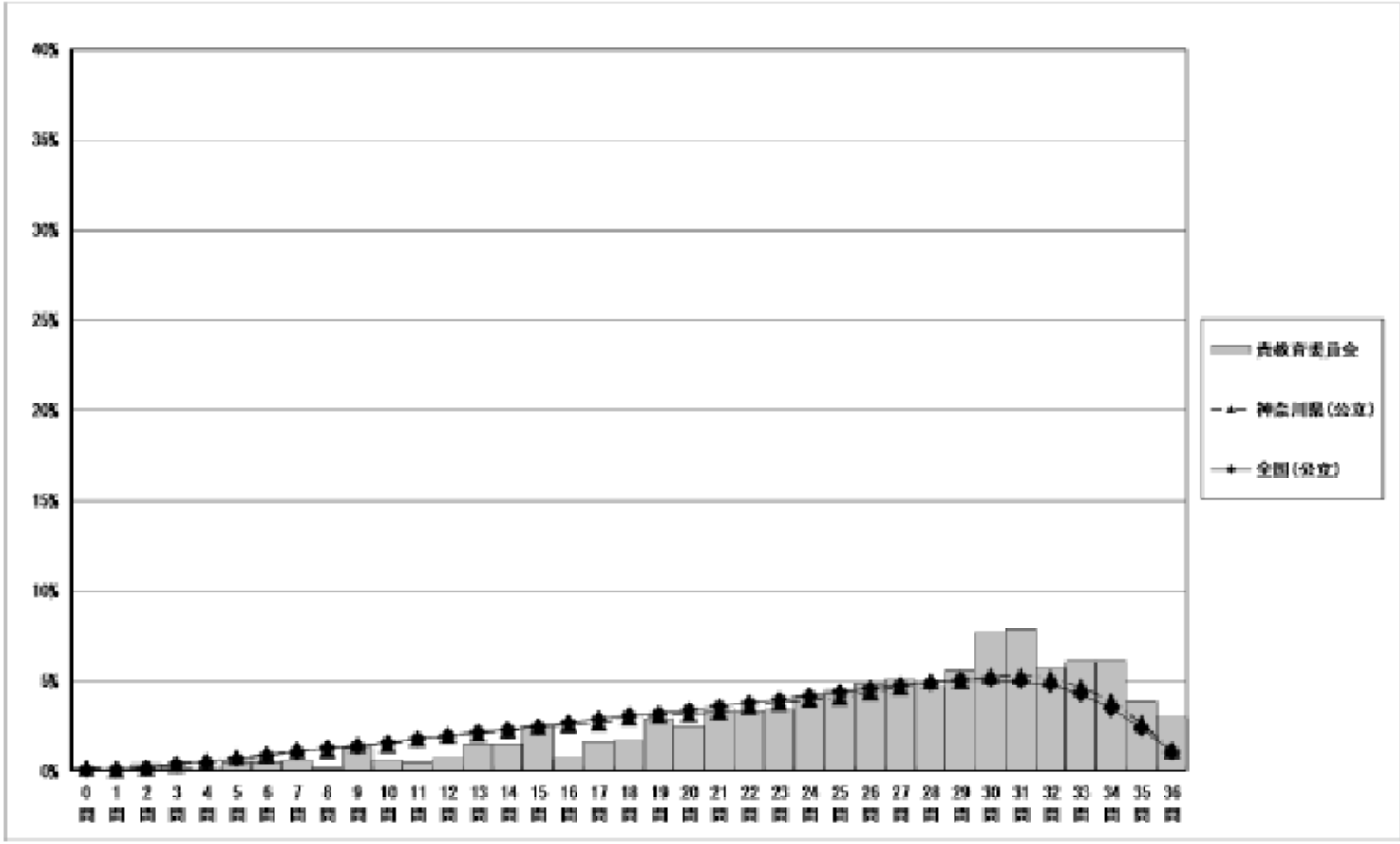
調査結果概況　［数学Ａ：主として知識］

鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,096	26 / 36	72.2	28.0	7.3
神奈川県（公立）	66,178	23.4 / 36	65.0	25.0	8.2
全国（公立）	1,016,737	23.2 / 36	64.4	24.0	8.0

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値（左：生徒数　右：割合(%)）		
0問	2	0.2
1問	0	0.0
2問	4	0.4
3問	2	0.2
4問	1	0.1
5問	5	0.5
6問	6	0.5
7問	7	0.6
8問	2	0.2
9問	14	1.3
１０問	7	0.6
１１問	6	0.5
１２問	8	0.7
１３問	16	1.5
１４問	16	1.5
１５問	27	2.5
１６問	8	0.7
１７問	17	1.6
１８問	19	1.7
１９問	32	2.9
２０問	27	2.5
２１問	36	3.3
２２問	36	3.3
２３問	37	3.4
２４問	46	4.2
２５問	49	4.5
２６問	54	4.9
２７問	56	5.1
２８問	51	4.7
２９問	61	5.6
３０問	84	7.7
３１問	87	7.9
３２問	63	5.7
３３問	67	6.1
３４問	67	6.1
３５問	43	3.9
３６問	33	3.0

調査結果概況　［数学Ｂ：主として活用］

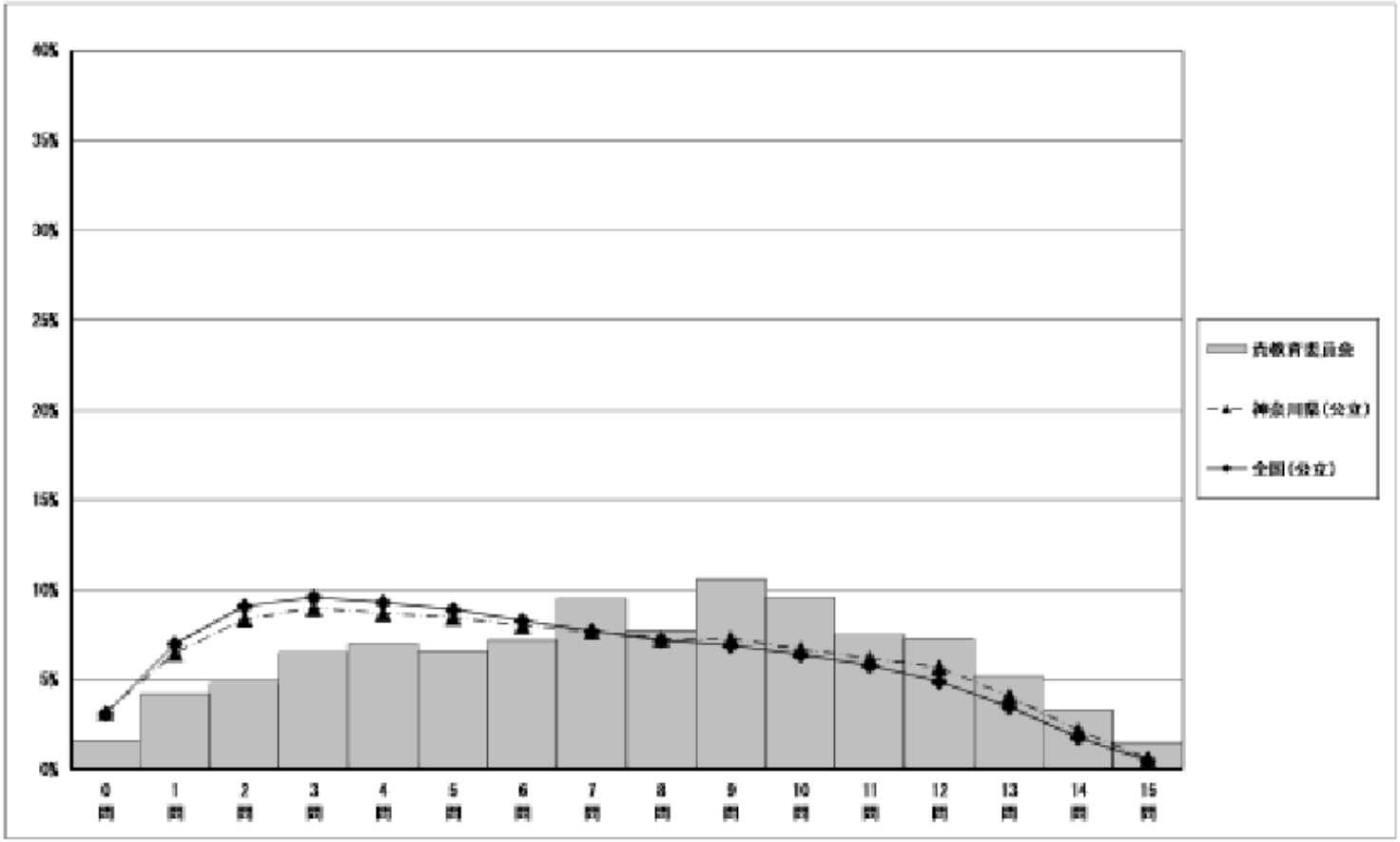
鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは，４月２１日に実施した調査の結果を，生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,095	7.6 / 15	50.8	8.0	3.7
神奈川県（公立）	66,138	6.5 / 15	43.3	6.0	3.8
全国（公立）	1,016,548	6.2 / 15	41.6	6.0	3.8

正答数集計値（左：生徒数　右：割合(%)）		
0問	17	1.6
1問	46	4.2
2問	53	4.8
3問	71	6.5
4問	77	7.0
5問	72	6.6
6問	79	7.2
7問	104	9.5
8問	84	7.7
9問	116	10.6
10問	105	9.6
11問	82	7.5
12問	80	7.3
13問	57	5.2
14問	36	3.3
15問	16	1.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



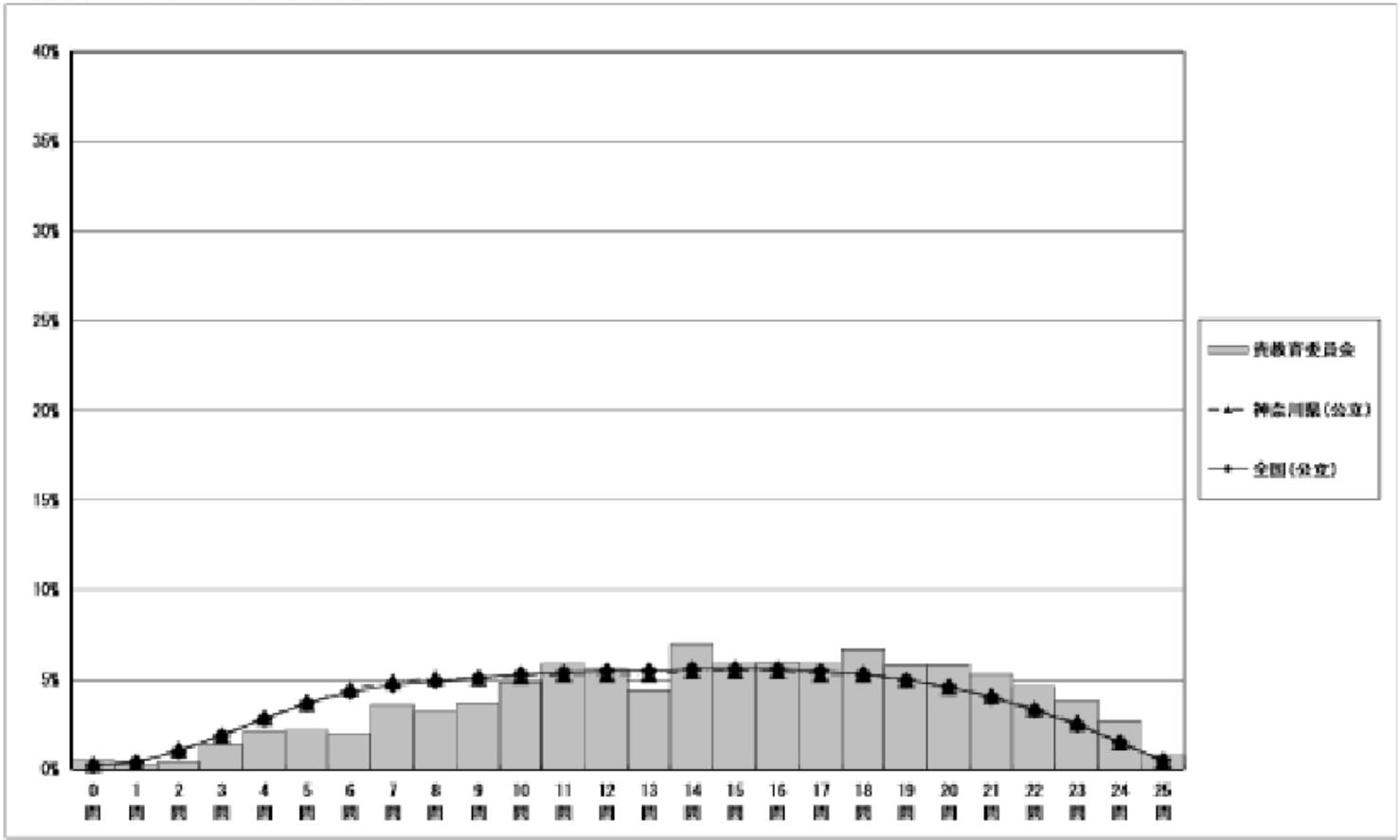
調査結果概況　［理科］

鎌倉市教育委員会－生徒

・以下の集計値／グラフは、４月２１日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,094	14.7 / 25	58.8	15.0	5.6
神奈川県（公立）	66,114	13.2 / 25	52.8	13.0	5.8
全国（公立）	1,016,572	13.3 / 25	53.0	13.0	5.7

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数集計値（左：生徒数　右：割合(%)）		
0問	5	0.5
1問	3	0.3
2問	4	0.4
3問	15	1.4
4問	23	2.1
5問	24	2.2
6問	22	2.0
7問	39	3.6
8問	35	3.2
9問	40	3.7
10問	52	4.8
11問	64	5.9
12問	61	5.6
13問	48	4.4
14問	77	7.0
15問	64	5.9
16問	66	6.0
17問	64	5.9
18問	73	6.7
19問	63	5.8
20問	63	5.8
21問	58	5.3
22問	50	4.6
23問	42	3.8
24問	30	2.7
25問	9	0.8